

市立伊丹病院トレーサビリティシステム

| | |
|---------|--|
| 団体名 | 市立伊丹病院 |
| 住所 | 〒664-兵庫県伊丹市昆陽池1丁目100番地 |
| システムの概要 | <p>臨床現場では、「安全で、質の高い医療を、効率よく」を基にこの順番にて業務を行っているが、そこにトレーサビリティシステムを導入すれば患者の医療安全が担保され、またその医療行為が全て記録として残すことができる。現在はトレーサビリティ実施項目として、注射薬トレーサビリティ、輸血トレーサビリティ、病理組織トレーサビリティ、医療機器への内視鏡、手術器械トレーサビリティ等が稼働している。最近ではインスリントレーサビリティを構築して、複雑な投薬条件を安全に行えている。更に、医薬品トレーサビリティのうち、内服薬トレーサビリティのシステム導入を試みている。</p> <p>当院では、看護師、薬剤師、ME技士が中心となってトレーサビリティシステムを稼働させ、医療の安全を担保しつつ質の高い医療を効率よく提供している。</p> |
| システム担当者 | 市立伊丹病院 看護部 土井 智恵美 |
| 電子メール | chiemi-d@bcb.bai.ne.jp |

| |
|--|
| 提供価値 |
| <ul style="list-style-type: none">・ヒューマンエラーの防止ができる。・医薬品および医療機器の適切な使用履歴を担保できる。 |

| | |
|-------|---|
| 今後の課題 | <ul style="list-style-type: none">・内服処方でもGS1バーコード活用を実施していく必要があるが、そのためには医薬品のシート単位のGS1バーコードではなく、注射薬と同じように調剤包装単位(患者使用単位の1錠ずつ)のGS1バーコードの貼付が必要。・トレーサビリティの導入費用は単純な3点認証であるにもかかわらず高額である。これを克服するためには、公立病院の電子カルテを共通の1システムにすることが望まれる。 |
|-------|---|

院内トレーサビリティシステムの全体像

医療機器管理トレーサビリティ



院内バーコード

GS1バーコード



注射薬/外用薬トレーサビリティ
インスリントレーサビリティ



医療機器連携(情報)トレーサビリティ



手術器械トレーサビリティ



二次元マトリックス

輸血トレーサビリティ



血液バッグの製造番号



内視鏡トレーサビリティ

院内バーコード



GS1バーコード



病理組織トレーサビリティ



QRコード



内服薬トレーサビリティ (試行中)

アピールポイントのまとめ

A. 技術

トレーサビリティはヒトの目視確認からITを使用したパラダイムシフトである。
トレーサビリティの導入によって医療がより安全なシステムとなる。
トレーサビリティによる読取りデータは電子カルテにビッグデータとして蓄積される。

B. ビジネス性

医薬品および医療器に対して患者使用単位でGS1バーコードを貼付すれば、トレーサビリティシステムの構築が可能となる。
看護師のダブルチェックが不要となり、業務の流れもスムーズに行える。

C. 提供価値

ヒューマンエラーの防止ができる。
医薬品および医療機器の適切な使用履歴を担保できる。

D. 利用者の評価

GS1バーコードを読み取るシステムでは、薬剤投与までにおけるチェックシステムとして有用であり、特にヒューマンエラーの防止に役立った。

A.~D.の中でとくに強調したいポイント

A